

教室で使える レポート評価



教室で使えるレポート評価

令和3年(2021年)5月発行

制作 / 札幌市教育委員会

表紙デザイン、イラスト、編集: 栗田マサキ



はじめに

「評価」は学習者にはとても気になるものです。テストの点数や通知表が悪くて親に叱られるマンガは昔からの定番です。「評価」をもとに学習者のランクが決まり、将来の進路を左右するのではないかとも思われているようです。

「評価」には評価する人と評価される人がいます。評価する人も実は評価することによって評価されます。教室では常に誰かが誰かを評価しています。小さな評価の集まりが教室の授業を創りあげています。

「これさえ覚えれば 100 点」というテストによる評価は一見公正で平等に見えます。しかし、世の中は 100 点満点の筆記テストでは決まりません。多くは、演説、会議、論文、説得、企画書、感動を与える音楽やアート、演技、立ち居振る舞い……などの評価で決まっていきます。つまり一部ではなく全体的・総合的な表現が評価されます。教室ならば、プレゼンテーション、グループワーク、レポート、授業に参加する態度などがそれにあたるでしょう。

ルーブリック^{※1}は複雑で多岐にわたる評価対象の全体像を細かく分け、段階的に評価するための道具です。形成的評価^{※2}はルーブリックの 1 つ 1 つの要素に焦点を当て重点的にトレーニングし評価するものです。複雑で多岐にわたる全体像を細かく分け、ある部分に集中することで、すべきことが理解しやすくなり、成長が見えやすくなり総括的評価^{※3}を高めることになります。

教室では何度も評価したり、されたりしながら、評価のシステムを学び、体験することができます。最終的に、評価は個々の特性を知るため、未来の自分を創るために、自分自身を常に客観的・科学的に見つめるための道具だという理解に至ります。

この冊子では、複雑に見える評価の全体像を見る化しました。また、「うまくいかないケース」を 8 つ取り上げ、生徒と教師の協働によって **「チェンジ!!」** することで **「グッドジョブ!!」** になるような提案をしています。この冊子をお役立ていただき、評価を楽しく、深く、有意義に **「チェンジ!!」** してください。

もくじ

レポート評価と成長 パーソナルプロジェクト^{※4} を例に ……4

ケース 1	意味不さん レポート評価意味ないよ	……6
ケース 2	人ごとさん テーマと自分は無関係	……8
ケース 3	おおまかさん 裏付け無しでは感想文	……10
ケース 4	甘すぎさん 自己に甘すぎ成長できず	……12
ケース 5	やみくもさん 規準定めず路頭に迷う	……14
ケース 6	記録しないさん 証拠がなくてどうするの？	……16
ケース 7	成果第一さん Outcome ^{※5(成果物)} だけに気を取られ	……18
ケース 8	振り返らずさん したことだけを書いてね	……20
	あとがき 言葉の説明	……22

レポート評価と成長

パーソナルプロジェクトを例に

※4

形成的評価^{※2}

Formative Assessment

学び続ける学習者を
「育てる」評価

エビデンス!!
エビデンス!!
エビデンス!!^{※8}

スキル!!
スキル!!
スキル!!!!



評価・指導

(→) コーチング

調査

学習者

計画

成長

ループリック^{※1}
学習者が記録。何でもOK…メモ、日記、考え方、自己評価、マインドマップ、出典、気持の記録、客観視、提出物の元ネタ……

行動

成長

振り返り

成長

- Outcome の完成度を評価規準に照らし振り返る
- テーマ・グローバルな文脈の知識と理解を振り返る
- IB の学習者としての成長を振り返る
- エビデンスを伴い振り返る

提出物

レポート
+・宣誓書^{※7}
・参考文献
・付録

成長した!!!



Outcome
= 成果物^{※5}

何が
待っているの???

- リサーチスキル
・ 情報リテラシースキル
・ メディアリテラシースキル

- 自己管理スキル
・ 情動スキル
・ 整理整頓するスキル
(時間と作業を有機的に管理するスキル)
= Organizationスキル

- 思考スキル
・ 創造的思考スキル
・ 転移スキル = Transferスキル
・ 批判的思考スキル
= Critical Thinkingスキル

- コミュニケーションスキル
- 社会性スキル
・ 協働スキル

振り返り Reflectionスキル

パーソナルプロジェクトを通して身につけたいスキル群
つまり、ループリックを満たすためのスキル群
そして、生涯学び続けるためのスキル群

ATL
Approaches to Learning^{※9}

パーソナルプロジェクトの評価は形成的評価、総括的評価の2つに分けられます。形成的評価では学習者は自己評価を含むプロセスジャーナルを記録し、教師はループリックを参照し生徒が記録した過程を評価していきます。総括的評価では評価者は

ループリックに従い提出物だけを対象に評価要素を積み重ねます。つまり、プロジェクトの成果物ではなく過程だけが評価されるのです。ATLはループリックの元になるスキルでプロジェクトを通じて学習者がどれだけ成長したかを測る指標です。

総括的評価^{※3}

Summative Assessment

評価要素を
積み重ねたもの



学習者

提出物

レポート
+・宣誓書^{※7}
・参考文献
・付録

ループリックを
規準に提出物
だけを評価

総括的評価者

どれどれ
1項目ずつ
見ていくかな

しかし
総括的評価の対象外

ケース1 意味不さん レポート評価意味ないよ

1

パーソナル
プロジェクトの
意味も評価も
よく分からな
い

途中の
過程なんて
どーでもイイよ

結果さえ
良ければ
....

評価の大切さ
意義を
知ろうとしない



レポートの
評価なんて
社会じゃ
無意味だし

なんか
評価は
良くなかっ
たし
何を
評価して
るのか
分かん
ないし
こんなも
んだし



フンッ!

なぜこの評価なの?
どうして良い点
がつかない?
どんな?
疑問を持つんだ
でもOK

なぜ結果だけ
イイんじゃないダメか?
結果とは何?

なぜ考えるのが
面倒なのか?

PPの評価は
社会でこそ
役に立つ

PPの評価
について
?出し
やってみよう!

評価は
自分自身も
世界も変える



「？」を出してみた
チェンジ!!

レポートの
評価って
意味ある?

勉強以外の
評価って何?

どうやって
評価して
いるの?

評価
誰がするの?

評価
システム
って何?

評価で
得するのは
誰?
絶対評価?
相対評価?

形成的評価?
総括的評価?

パーソナル
プロジェクトの
評価は?

結果じゃなくて
過程を評価?

診断的評価?
自己評価?



？？？
？が評価の
必要性・意味を
見つけていく

どんな疑問でも
いいの?

結果だけ
イイんじゃないダメ?

考えるの
面倒じゃない?



PPの評価に
ついて
分からな
こと?

評価規準
って何?

なぜ?
どうして?
何故?

なぜ?

ATLとの
関係は?

さらに深く
歴史的評価に
耐えるって
どういう意味?

評価は誰のため?

評価規準って何?

もしかして....
評価って
未来の自分を
創っていくの?

評価前と
評価後の違いは?

プロセスジャーナル
は自己評価?

グッド
ジョブ!!

なのか?と疑問を持ち、PPの評価を探究してみると、評価が自分自身を成長させる道具なのだと気づきました。さらに自身の内側にまで考えがおよび、未来の自分にも思いを馳せるようになりました。

意味不さんはパーソナルプロジェクト = PP の意義が理解できませんでした。レポートの評価は社会では役に立たないと思いこんでいました。PPのような面倒なことが嫌い。評価の大切さも知ろうとしませんでした。ところが「なぜこの評価

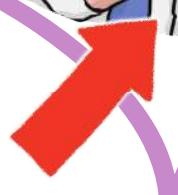
ケース 2 人ごとさん テーマと自分は無関係



PPのテーマ
自分とは
無関係

君の興味は
世界と
密接に、連続的に
つながっている

スポーツと世界平和
マンガと経済
国民総生産と教育費
アイドルと心の安定
アニメと国際協力



チェンジ!!

自分と世界は
分けられない

釣り
→漁業
→世界の漁業
→世界の海
→国際水域
→食糧問題

…
グローバルな文脈って
そういうこと?

視点を
拡げれば
違った世界が
見えるのか?

日本のマグロと
カナダのマグロ
何が違うのか?
…とか

川釣り
海釣り
川と海の
つながり
森と漁業
…とか

養殖の可能性
海洋環境の変化
とか

ありや～
分かってきた
かも…

見えているもの
見えないもの…

あれと
これとが
つながって
…

自分の興味は
世界と
つながっている

世界とつながる
自分も地球と一緒に
…

グッド
ジョブ!!



ケース 3 おおまかさん 裏付け無しでは感想文



数値・情報の裏付けがいいかげん

このテーマには数値・情報の裏付けが絶対に必要いつ?だれが?どのくらいの量?AとBの数値を比較、出典も正確に…論理・根拠なしにいきなり「こうだ!!!」と→エビデンスなし主張してもただの感想文

数字を図にして目に見える形に



図解して明確・科学客観的

グッドジョブ!!

理解しやすくなりました。また、論理学の基礎も得意の図を通して頭に入れる一見関係なさそうな複数の事が実は密接に関係していることも分かり、グラフと図を多用して、正確で科学的なレポートが書けるようになりました。



まずは文の属性で分類
・これは僕の考へ
・こっちは○○さんの
書いたこと

論理と裏付け
エビデンスって
こういうことだな

$A+B=C$
算数だ!!

数字を確認!!
AとBの数値を
条件毎に整理!!
グラフ化!!



も図にすれば
論理そんなに
複雑じゃない



ケース4 甘すぎさん 自己に甘すぎ成長できず



自分に甘すぎ成長できない

ループリックの具体的項目に注目するんだ



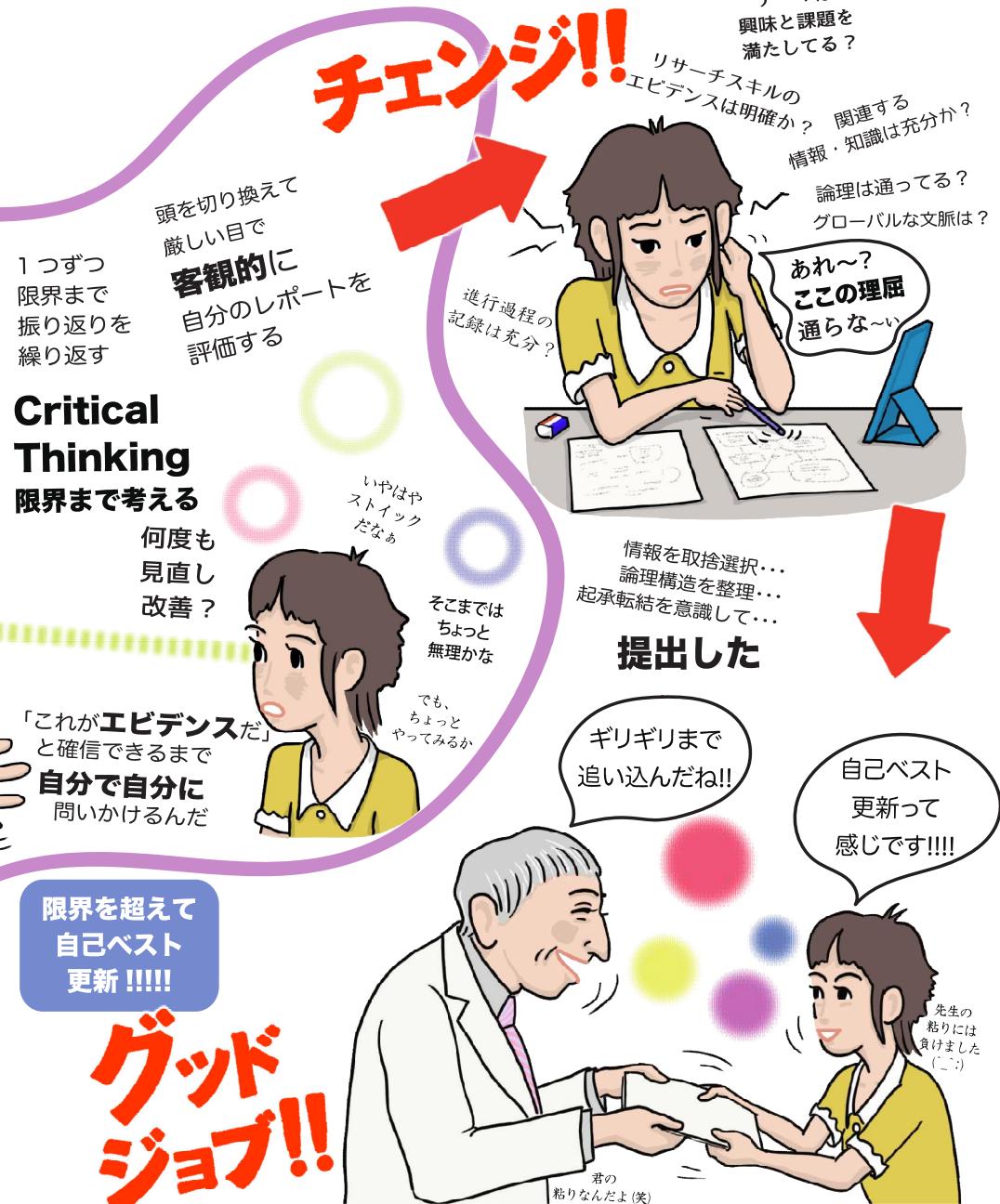
形成的評価



限界を超えて自己ベスト更新!!!!

グッドジョブ!!

甘すぎさんは楽観的。いつも「まあいいんじゃない?」「おおっ、我ながら完璧」という感じで楽しそう。でも、自己評価が甘すぎて、とことん考える Critical Thinking スキルや創造的スキルの成長が今ひとつでした。しかし、ATL と、ループリックを



読み込み、各項目ごとに要件を満たすエビデンスがあるかどうか厳しく振り返りをしてみると、論理的整合性の大切さに気づきました。提出まで自己評価と改善を繰り返したので成長を自覚し大満足。自己評価と客観的評価が一致しました。

ケース 5 やみくもさん 規準定めず路頭に迷う

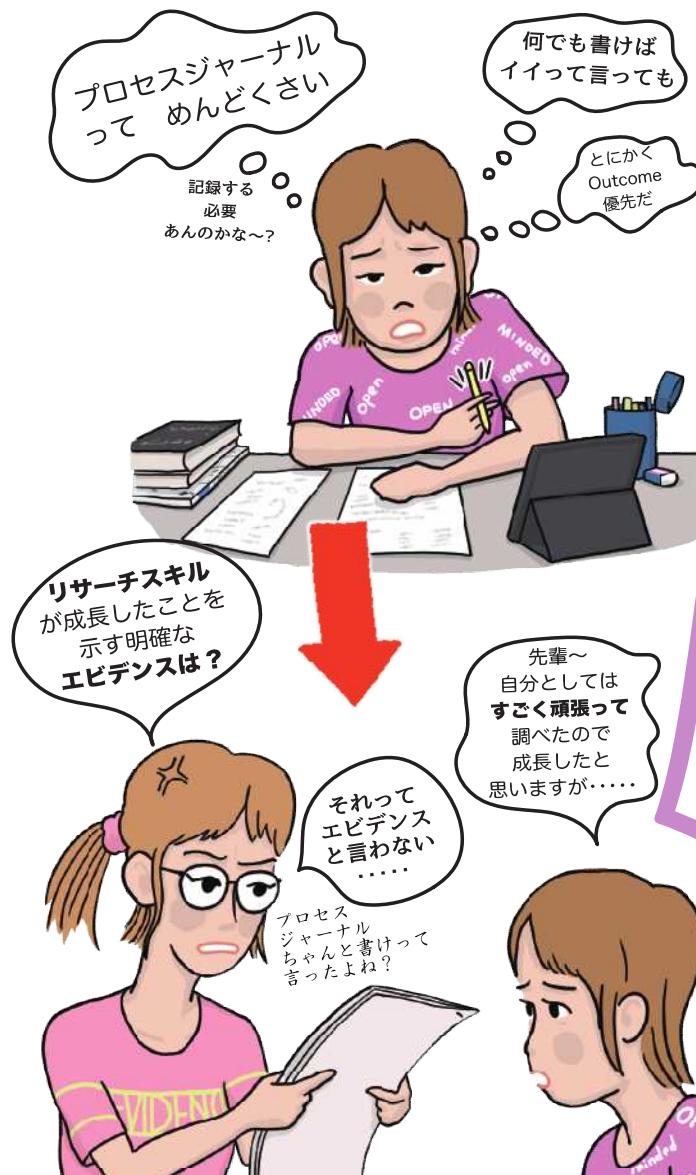


やみくもさんは、じっくり考えるのが苦手、とにかく頑張れば何とかなると、無計画に課題をこなしていました。しかし、その労力の割には満足感が得られません。自分の得意・不得意もボンヤリしていて途方に暮れていました。ところが、ループ

リックの項目をきちんと振り返り、自分自身を客観視(メタ認知)できるようになると、焦ったり、慌てることがなくなり、作業工程の時間軸の中に自分を置くこともできるようになりました。ゴールを見据えて取り組めるようになりました。

ケース
6

記録しないさん 証拠がなくてどうするの？



記録しない
ので過程が
あいまい

過程
プロセスジャーナル
はものすごく大切だよ
何をしたのかをあとから
正確に辿れる

エビデンス
が示せる

プロセスジャーナル
から絞り出されたエキスが
評価対象のレポートになるんだよ

プロジェクトの進行

OUT-COME
OUT-COME
OUT-COME

→

OUT-COME

自己評価
日記
出典
良い資料が見つかった
メモ
考え方
客観的に見れば…

抽出物
レポート
・参考文献
・付録

ここが
評価対象

正確な記録で
振り返りも
楽しい

グッド
ジョブ!!

CHANGE!!

プロセスを
しっかり記録だ。
そこを怠れば
成長はない!!!

どんな細かいことでも
記録・記録

思いつきや
突飛な考え方
反対意見も
書き留める～



記録しないさんはプロセスジャーナルの大切さが分かっていませんでした。細かいことを記録するのはめんどうだと毎日のジャーナルを怠っていました。しかし、プロジェクトの途中で先輩に「プロセスジャーナルがレポートの根本だよ」と言わ

れ、過程を記録することの大切さと客観性、可能性を再確認。正確に記録してみると、パーソナルプロジェクト全体が見えて来て、過程をきびしく自己管理することができました。結果として充実した「振り返り」も得られました。

ケース 7 成果第一さん Outcome(成果物) だけに気を取られ



成果第一さんは、Outcomeを仕上げるために集中し過ぎ、新しい事に挑戦したり自らのスキルを高めることを意識しませんでした。論理の破綻や、情報不足も気にしすぎ、成長の実感の得られない萎縮した発表になりました。しかし「分からなく

て面白いこと」に意識を向けると、世界は謎に満ちていることに気づき、成長して未来を創るのが自分の役割だと自覚。Outcomeにこだわらず、大胆な仮説をたて、もがき苦しみながら大きく成長しました。

ケース8 振り返らずさん

したことだけを書いてもね



過去だけを書くのは振り返りではない

振り返りは Reflection
つまり反射
=自分の姿を鏡に映すこと
過去だけではなく現在・未来の自分をみつめよく考える
すると成長の過程や明確な目標が見えてくる



プロジェクトの密度が濃くなった

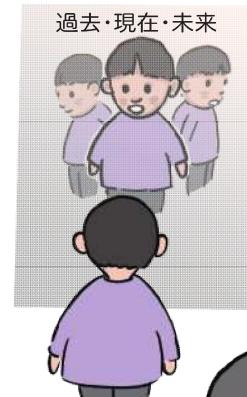
グッドジョブ!!

ように見つめ、考えることと捉えなおし、毎日 Reflection してみると、考えることが何倍にも増え、パーソナルプロジェクト全体の密度も何倍にも濃くなりました。その結果、自覚できるほど明確に ATL スキルが成長しました。

今日の振り返り

- (1) 事実確認
- (2) 昨日までと比較
- (3) 改善の可能性
- (4) スケジュールの見直し
- (5) 最終目標の再設定
- (6) その他諸々

チェンジ!!



うまく行かなかったなぜ？

次にできることは？

どんなスキルが必要？

そのスキルを身につけるためには？

という感じかな？

毎日続けてみた…

ぎりぎりまでやった…充実感～

評価を待ってまた、振り返りだ!!

ふう～

しんいけど成長の実感があるな～

あとがき

過去、大小のプロジェクトが数限りなく計画され、たくさんの人が参加し、実施されてきました。そこには人々のエネルギーが集まり、世の中を変えてきました。それらのプロジェクトのうちのいくつかは歴史的遺産や文化的遺産となり、今でも私たちの身近に存在しています。

この冊子は公立の中高一貫教育校としては日本初の国際バカロレア※10(以下IB)の認定校である市立札幌開成中等教育学校の評価の実例とともに生まれました。特にIBプログラムにおける【パーソナルプロジェクト】をとりあげました。パーソナルプロジェクトは『結果を評価する』のではなく『過程を評価する』仕組みを持った特徴的な教育プログラムです。

『結果に光が当たられる』今までの社会の評価規準ではなく『過程だけを取り出して評価すること』で、プロジェクト遂行の過程に必要なそれぞれのスキルを明確にします。生徒たちは、そのスキルの1つ1つに焦点を当て集中的にトレーニングすることで必要なスキルを論理的、科学的、しかも経験的に理解し、個々に応じた力を獲得していきます。そして、さまざまなプロジェクトでそれらの多様な力を発揮できるようになるのです。

弓道に『正射必中』という言葉があります。正しく(心技体=正しい心で正しい姿勢で正しい鍛え方で)矢を射れば、必ず的に当たる(結果はあとから付いてくる)という意味です。つまり、成果に気を取られるのではなく「正しく矢を射る」という過程に集中しなさい」ということのようです。

4-5頁に示したようにパーソナルプロジェクトにおける評価と成長の仕組みはまさに生徒の未来を創るものであり、パーソナルプロジェクトの過程を通じて身についたスキルは生徒たちの生きる豊かな未来を創る強力な武器となるのです。

粘り強く、誠実で、科学的で、客観的で、論理的、そして冒険に満ちた勇気あるプロジェクトが世界を平和で幸せな未来に導きます。

この冊子を使って生徒たちが、自らの成長する過程を意義あるものと意識し、価値のあるプロジェクトを実行する力を身につけ、現実の世界を調和のとれた豊かな未来へと動かしていくように願っています。



【言葉の説明】

※1 ルーブリック = Rubric : 評価規準である学習の目標に対する到達度を段階的に表などで示している基準。学習者、評価者が常に共有し参照する。

※2 形成的評価 =Formative Assessment : 単元における学習者の知識やスキルの状態を示すもので、学習者と評価者が常に共有すべきものの。学習者自身の自己評価もこれに含まれる。

※3 総合的評価 =Summative Assessment : 学習の単元を通して学習者が身に付けたスキルや知識を含めた成長の表記で評価要素を積み重ねたもの。

※4 パーソナルプロジェクト =Personal Project=PP : 学習を通して培った学習のスキルや知識を活用して取り組む IB の MYP(中等教育プログラム =Middle Years Programme)の集成としてのプロジェクト。

※5 Outcome= 成果物 = アウトカム : 学習の成果を示す作品、レポート、プレゼンテーションなどを指す。

※6 プロセスジャーナル =Process Journal : 学習の過程で考えたことや気づいたこと、調査したこと記録するもの。日記、感想、自己評価、マインドマップ、思いついたものなどが含まれる。

※7 宣誓書: レポートなどの Outcome が自身のものであり、参考文献や引用元などを所定の書式で示していることを宣言する文。

※8 エビデンス =Evidence= 証拠: ものの成り立つの根拠になる記録。いつだれがどのようになど具体的な明示が必要。

※9 ATL: =Approaches to Learning: 学び方を身につけるための 10 のスキルが 5 つのカテゴリーに分類されている。コミュニケーション / コミュニケーションスキル - 社会性 / 協働スキル - 自己管理 / 整理整頓 (時間と作業を有機的に管理 =Organization) するスキル・情動スキル・振り返り =Reflection Skills - リサーチ / 情報リテラシースキル・メディアリテラシースキル - 思考 / 批判的思考 =Critical Thinking Skills・創造的思考スキル・転移 =Transfer Skills。IB の教育課程で身につけて欲しい各種のスキル。

※10 国際バカロレア =IB=International Baccalaureate

※: グループワークについては『教室で使えるグループワーク』(2017 年発行)

レポート作成については『教室で使えるレポート作成』(2019 年発行) を合わせて参照して下さい。